

平成 30 年度 保育園・学校課題検討委員会（第 8 回）会議録概要

- 1 開催日時 平成 30 年 6 月 15 日（金） 午後 6：30～8：00
- 2 場 所 飯山市役所 4 階 全員協議会室
- 3 会議の経過及び発言

1 開 会

2 教育長挨拶

みなさん、こんばんは。

先日、6 月議会が始まりまして、ある議員から飯山市の特別支援教育についての質問がございました。飯山市の特別支援教育と言うのは非常に各現場の先生方が、ご努力されておりますが、児童生徒全体の小学校 5 %、中学校 5 %の生徒が特別支援学級への通級を通じて特別支援教育を受けております。この 5 %という数字が、高いのかどうかということについて、市民あるいは保護者は関心があるものと思いますが、長野県がいずれも 4 %台ですので、飯山市の場合は高いということになります。

この高い理由については、いろいろな原因があるわけですが、今の子ども達は多様でございまして、飯山市の場合は保育園から少ない人数で保育士を通じて、子ども達をよくみております。

それだけに早期発見・早期対応と言う形で対応できているのが、その高い数値につながっていると基本的には理解しております。

文科省の H27 年度データでは、平均して 6.4 %ぐらいの特別支援学級対象の生徒がいるのではないかとわれております。

いずれにしても、飯山市の公教育の中で、表面に出てこない特別支援学級教育と言うのも、ご理解いただけるとありがたいと思います。また、後程、説明します飯山市費による加配の先生が多いという状況も、そうした背景があるということをご理解いただけるかと思います。

今年から県から飯山小学校へ通級指導の先生 1 名の加配を得て、現在 2 名で動いております。そのうち 1 名は、この地域の特別支援教育の指導的・リーダー的存在としての役割も担わされていると思いますが、そうした学校現場の教育の一面も見ていただけたかと思えます。いずれにしても 8 回目と言うことで、事務局から説明等あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

3 委員長挨拶

前回から少し間が空きまして、事務局に頂いていた課題もあったかと思いますが、よろしく願いいたします。

4 議 事

(1) 前回(第7回)会議を踏まえて

◎学級編成・教員配置基準等について

(事務局)【「学級編成・教職員配置の基準」について】説明

◎中学校・高等学校卒業後の進路状況について

(事務局)【資料 平成29年度市内中学生進路先(城南・城北)について】

【資料 第一通学区(飯山高校・下高井農林高校)卒業実績：現役のみ】

(2) 平成30年度小中学校児童・生徒数および将来推計について

(事務局)【資料 平成30～36年度 児童数の推計】

【資料 平成30～42年度 生徒数の推計】

(3) 中学校部活動の状況について

(事務局)【資料 中学校部活動の状況】説明

5 会議事項

(委員長)

前回のご意見・ご要望事項を資料・説明いただきました。

皆様、ご意見をお聞かせいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(A委員)

木島小学校がなぜ増加傾向にあるかと言うと、民間のアパート経営が増えて若い方に住んでもらえる。市の若者住宅と言うのもありますが、民間の方が積極的に住宅建設いただいているということだと思います。

検討委員会に今年から入らせていただいて、疑問に思うことが1つありますが、いわゆる「あり方検討会」というのは、子どもの数が減るから学校どうしようか、という面が大きいのか、ある程度の学校規模を維持するために行政に何かできないかという提案をするのがよいのか。

たとえば、木島地区に若い人たちが増えている状況を分析すれば、ある程度のことがわかることなのかもしれませんが、若い人たちがより勤めやすい環境、たとえば今年か

ら市が新幹線通勤に補助を出すということがありますけれども、そういった面をより充実させる制度、家庭がある人を充実させるとすれば、通勤時間を短縮でき早く帰宅する環境ができるわけですが、独身者ばかりが長野へ通えるということではなくて、子育て世帯が遠くまで通勤しても家庭生活を充実できるという施策を提案するののも一つの方向だという考え方があるのではないかと。

1 つは今日、資料をいただいた中で、連続して学級が 8 人以下にならないければ複式学級は、いいということになるのでしょうか。私の解釈と違うかもしれませんが。

8 人をベースにして考えれば、複式学級はなかなか遠い先、と言うことが言えると思えば、最低でも複式にならないかたちの小学校を維持してもらおうという基本的な考え方が 1 つあるのだと思います。そのために教育なり、どういう政策を行政の方に委ねるのか、数だけを合わせる学校をつくるのではなくて、検討会に入って半年で、まだ見えないのですが、そんなことを考えています。

(委員長)

はい。それでは、ほかにいかがでしょうか。ご自由にご意見頂戴したいと思います。

(A 委員)

よろしいですか。もうひとつその教員の数について、ある程度理解できましたが、実際に子どもの数のために教科の中身が難しくなると言いますか、ある程度人数がそろわないと体育などはできないこともあるかと思えますし、音楽は難しいかと思えますが、他の教科は子ども達の人数が少なくとも、教科自体がおろそかになるという問題にはならないのではないかと。より身近に深く教えてもらえるのではないかと。体育以外の教科によるデメリットはないのではないかと、という思いがあります。だから、子どもの人数が少なくても頑張れるのではないかと、というのが 1 つです。

(委員長)

前回、皆様の意見をお聞きした際に、B 委員さんからは、今の A 委員さんのお話とは別の見方のようなご意見を述べていただいたように思いますが、B 委員さんの印象はございますか。

(B 委員)

私は、複式学級に関してですけれども 1 年生と 2 年生の複式で、基本的に 1 年生の教科と 2 年生の教科とを一緒に学習するということが不思議ではないのですが、可能なのではないかと。下の学年の子が上の学年の学習と言うのはいかがなものでしょうか。

(C委員)

国語とか算数とかに限って言えば、1年生が2年生の学習内容を学習するということではないですね。いわゆる担任の先生が一人で、それぞれの学年を同時に並行して教えていくということです。

(B委員)

では、教師は二人つくわけですか。

(C委員)

複式ですので、一人です。

(B委員)

そうですね。ですから通常一日分、1学年に力を注げるところを、半分になるというわけですね。1年生の学習半分、2年生の学習半分。1人の先生が両方見るわけですから。ですから2分の1になるわけですね。

私が言いたいのは、どうしたらそれが可能なのかな、ということ。非常に不思議です。

複式学級って、保育園の場合はまだ、仲良くっていうところでなんとか仕方がないのかなという面はあったにしても、小学校で複式って場合には、何か違うなという感じがしているのですが。

(委員長)

子どもが損をしているのではないか、ということですか。

(B委員)

子どもが損をしているというよりは、理解度が半分になるのではないかと。通常1時間かけるところを30分ですね。よほど有能な楽しく効果的に授業を進める先生がいればの話ですけれども。

(C委員)

長野県の場合は、複式解消ということで8人を超える場合は現時点ではあるので、なかなか複式学級の教科指導の研究が長野県自体、進んでいないのが実情かと思います。

それから、この8人が減った場合でも市町村がかなり市町村費で加配の先生をいれるということが、かなりありまして、多くの場合、実際に複式をとりいれるということは少ないと思われます。ただ、他県に目を向けると複式で授業をするという研究がかなり進められています。こうしたら、複式学級であっても授業の質は落とさない、というような研究を進めている。広島大学の教育学部附属小学校でさえも、わざわざ複式学級

をつくって研究をすすめているので、大事なことは、必ずしも人数が少なくても、先生が二つの学年を見なくてはいけないから質が下がるのかどうかというところは、まだまだ複式学級を研究していかないとわからないことなのかな、と思います。

単純に数の話だけでいけば、35人規模学級で言えば先生は35人を見なければいけない訳ですね。でも、複式学級と言うかたちだったら、長野県の場合なら8人の子ども、どちらに先生がどれだけ時間をかけるか、単純に数字の場合だと…、

(B委員)

私は複式学級の運営の仕方とか授業の進め方を言っているのではなくて、飯山市は小さな島なのかと言うこと。分校みたいなね、そんな小さなところなのかと言うことを言っているんです。有能な先生がおられれば有効的にできるのかもしれないですが、複式学級ありきと言うのがどうなのかな、というのが私の思いです。わかっているだけでしょいか。

(委員長)

私は、B委員さんのお気持ちは、わかります。

子ども達が割をくわないような環境を、どう考えるかということですよ。

(B委員)

ひょっとしたら天才が生まれるかもしれませんけど。

(委員長)

少人数の小学校から大人数の中学校へあがると、少人数の学校からの子は、いい子です。いい子ですけども、ある意味たくましさには欠けるというか…。

(B委員)

やはり10人と接するより、30人と接するほうが、人間関係の波にぶつかりますよね。そこから人間関係の何かを学んだりしていくのかなというのが私の思いで、あまり小さなクラスを是とするのが、どうなのかなと感じるのが私の思いです。

(D委員)

学校の先生というのは、たいしたもので、人数が多くても少なくてもそれなりにやってしまうものです。もちろん、少ないからと言って簡単にできるとか、子どもが大勢いるから非常に大変だとか、そうしたことはないと思います。

任されたなりにどうするのかと言うことを考えるので、そうした面で多いとか少ないとかの影響はないだろうなと私は思います。ただね、県教委にしても市町村教委にし

でも現状、かなりの加配の教員数を複式学級につけていて、それがどれだけ財政を圧迫しているかも考えたほうが良いと思います。財政的には、できれば複式学級や加配を減らす方向で考えていきたいところだと思います。そうしないと、そのほかの大事な部分の教育予算と言うのが限られてしまう。

そういうことも考えていかないと、難しいかな、と私は思います。

小学校をみていくと、資料 6 ページの学校別児童推計を見ますと、平成 30 年度 932 人、それが平成 35 年度には 773 人で 160 人ほど減っているわけですね。

上下はありますが、これで平成 40 年度くらいには 580 人になると推計されています。

何が言いたいかと言いますと、来年度かな、中野市の高社中学校区の小学校は 4 校が 1 校に統合されますよね。たしか、その検討委員会が立ち上がって 10 年が経過している。つまり、たとえば統合とか考えた時に 5 年後・6 年後先の数値ではなくて少なくとも 10 年後先の数値で考えないと、実態と合わなくなった議論になってしまうと思います。それをもう少し大事に考えたいなと思います。

(教育長)

逆に考えると 10 年くらいかかるということでもあるのかな。さきほど複式学級の話がでましたが、私は小学校 6 年間で複式学級で、確かに良い点もあるけれども、実際に受けている立場からすると上級生が先生の指導を受けているときは、自分は漢字の書き取りとかを自分でやらざる得ない状況でした。よほど有能な教師がいたとしても、同じ時間内で、全くの単級で、同じ学年で学ぶというクラスと比べたらハンディになることは明らかではないかと感じました。いくら優秀な教員に教わったとしても、学力面だけでみたらの話ですが。年代は異なるけれども。

(委員長)

ある意味カルチャーショックを体験されて、今の教育長がおられるということですよ。

(教育長)

同級生 4 人から飯山中学校へ来て 1 学年 200 何人という環境。慣れるまでに半年、本当に慣れるまでには約 1 年。特に異性との対応は、小学校でいなかただけに本当にきつかった。実際に、今は市内の学校でも男女比率のアンバランスなところがあります。

そうした中で、長い時間かけていた場合に、一人一人の子どもが、それぞれ異性に対するコミュニケーションが躊躇なくできるようになるのだろうか心配なところがあります。

(B 委員)

女性とどう付き合ったらよいかわからないという男の子が多そうな感じがします。

そういった意味合いからも多少の関係があるのかなと思ってしまいます。

スマートフォンでは会話できても、直接顔を見て会話できないというのは、異常事態だと思います。人間関係を構築して、世の中を構成していく上では異常な世界だなと思います。隣に座っているのにお互いスマートフォン同士の会話。年寄りの私を感じるようなのでしょけれども、違うんじゃないかと思ってしまいます。

(委員長)

電話代わりとは違いますよね。

(A委員)

もうひとつよろしいでしょうか。

私、行政に長くいたこともあって、すぐ行政のことを考えてしまうのですが、学校の存在価値あるいは学校中心とした考え方というのは、結構、地域に根ざしています。

今、飯山市が施策として若者移住定住を進めようとしている中で、その条件のなかに、学校が近くにないところが、果たして人に移住してもらえるのかどうかという現実問題。そこへ行政が若い人たちを呼べるのかと言う。現在、富倉には子ども達がいらない状況ですよ。もしかすると何年後かには消滅してしまうかもしれない地域を、市が積極的につくっていいのかというのは、いつも疑問に感じているのですが。

(教育長)

A委員のご意見、たしかに市としては人口減少に歯止めをかけて、外から若い人たちを呼び込もうとしているときに、保育園が市内に2園しかないということになると、移住を検討されている方が躊躇されると思います。特に保育園の場合は。だから、保育園の統廃合は現実的に難しいと考えていますが、どうでしょうか。

(E委員)

保育園は都会にいと入れないじゃないですか。

(教育長)

では、多少遠くてもよいと思いますか。

(E委員)

私、Z保育園の保護者会長ですが、岡山から車で通っていて、同じような保護者が周りにも何人もいらっしゃって、仕事の都合もあるので大変だろうなあと思うこともありますが、ある程度人数がいる中で通えるというのは、お母さん方も、とてもありがた

いとおっしゃっています。

Y保育園の時は、1人とか2人という学年で一人の状況なので、お友達もつくれなくて…とう状況だったので、今、Z保育園に来られて良かったと聞いています。

本当に田舎に暮らしたいという方は、多少の不便さも求めているというか。

実際にX小学校にも数年前に神奈川から引っ越されてきた方がいらっしゃって、それこそ羽広山の古民家に入られて、子ども達は羽広山からバスで通っていますが。それも苦にはされていなくて、そこを不便と思ってしまったら移住を勧められないのではないかな、そこも魅力なんだよという部分も言わないと、飯山へどうぞ、とは言えないのではないかと、今、聞いていると思います。

(教育長)

そうですね、移住されてきた方は、魅力とを考えていただけるかもしれませんが、飯山市の保育園が西に一つ、東に一つ、と言うようになった場合に、それまでは歩いて通えていたのに、車で10分15分となった場合は、飯山の若いお母さん方が、同じように考えてくれるかどうかという部分には疑問があります。

(E委員)

仕事の通勤の近くにあれば、どこであっても連れていきます。

(教育長)

仕事の通勤近くにあればと思いますが、そうでない人もいますのでね。

(E委員)

受け入れてくれる保育園があるということだけで、都会から移住してくる人にとってはかなり違うと思います。都会では、今は保育園に入れなくて困っているのですから。

(委員長)

そういう面では飯山市は恵まれていますよね。

(E委員)

それこそ1歳の小さいお子さんから預けられるし、とても手厚く見ていただけているし。話がずれてきてしまっていますが、そうした意味では、保育園が減っても働ける場があれば移住者は来るのだと思います。今、話したように不便さも魅力だという売りもないと、移住化も進まないのではないかと考えています。移住を勧めるのに、こうした不便さはあるけれども、別に、こんな素晴らしさがあるよ、としていかないと。

(教育長)

そのように考えてくれる人だけなら嬉しいけれども、あきは保育園としろやま保育園の時は、今と 100%違うご意見を散々いただいたものですから。

(委員長)

飯山市は市になってから半世紀以上経ちますが、第3代市長の春日佳一という方は、働く環境をサポートするためにポストの数だけ保育園をつくらなければだめだと言って、保育園整備を進めました。その結果もあってなのか、財政再建を迫られる状況を経て今の飯山市があるんですけれども、その頃の精神が飯山市の福祉行政には継承されているといいますか、私は飯山市の素晴らしいところは福祉面での行政サポートは恵まれているのではないかなと感じているところではあります。また若い皆さんは、また違った印象をお持ちかもしれませんけれど。

(G委員)

新しくできた「きらら」があるじゃないですか。長野市は、保育園に預けていても遊びに行けるんですよね。なぜ飯山市は、利用できないのでしょうか。

(事務局)

できないということには、なっていないです。

(G委員)

いえ、いけないことになっています。何かに書かれていましたけど。

(事務局)

それは、子育て支援センターではないかと思います。

(G委員)

子育て支援センターも、長野市は、遊びに行けるんですが。

(事務局)

支援センターは(月)～(金)でしか開けていません。保育園に通っているお子さんだと、(月)～(金)は保育園に行っている曜日ですよ。

(G委員)

保育園を休んで、子どもと遊びに行きたいけど、冬は雪が多いから外で遊べないので、そうしたところへ遊びに行きたいなと思います。

でも、「ああ、保育園に預けているんだね、お母さん。それではここへは来てはいけないんだよ～」みたいなことを言われた瞬間に、支援したいんだか支援したくないんだか、よくわかりませんでした。

(事務局)

まず説明が足りなくて申し訳ありませんでしたが、土曜・日曜はご利用いただけます。

申し訳ありませんが、保育園と言うのは、そもそも仕事を持つ方のお子さんの保育というところなので、子育て支援センターへ保育園の子どもさんが保育園を休んで来るというのは想定していません。ただ、厳密に言えば小学校就学前のお子さんであれば、子育て支援センターは使えますけれども、保育園へ上がる前のお母さんとその子どもさんが通う施設ということで、支援センターとしては土曜・日曜は休みで職員はおりません。ただ、開放はしておりますので、児童センター的に使ってもらおうということで、保育園に通っているお子さんも土曜・日曜のご利用はいただいております。

繰り返しになりますが、平日に保育園を休んで、わざわざそこへ遊びに来なければいけないのか、という部分は想定しておりません。

(G委員)

冬は遊ぶ場所もないし、かといって、ずっと子どもを預けていても、自分が休みの時は、子どもも保育園を休ませて一緒に遊びたいなと考えるお母さんもいると思っています。お母さん方の全員が正社員ではないと思いますので。

保育園に入れる、その一定基準を満たせばよいので、実際働いていなくても、自分の家で田畑を大きくやっていて仕事している、という体で預けている親もいますし。

(事務局)

来てはいけないということではないです。ただ、子育て支援センターの利用者は、ということで、利用については入園面接があるわけではないですし…。

(G委員)

(月) から (金) の平日に、保育園に通わせている子を連れて、支援センターの先生がいる時間に遊びにいてもいいってことですか。

(事務局)

まあ…保育園をお休みしてってことですよね。

(G委員)

でも、書いてありますよね、ダメだって。

(事務局)

どちらに書かれていましたか。

(G委員)

しろやま保育園のところに支援センターがあったとき。それも先生たちに「保育園に通っている子は来ちゃいけないよ～」みたいなこと言われて、気になりました。変えてくれたらいい、と思っていたのですが、子どもと遊べるところがないので。

病後児保育の利用料も、結構高くて1時間700円というのは。

(事務局)

それは、何の資料ですか。

(G委員)

きららの病後児保育で、書いてありますよ。

(事務局)

そのような資料は、どこにもありません。病後児保育は無料です。

事務局では「病後児保育の利用料は有料で700円です」というような資料は作っておりませんので、お持ちでしたらそのチラシをみせてください。

(G委員)

貼ってありませんでしたか。児童センターとか。

(事務局)

もし、お持ちであれば見せていただきたいのですが。

(G委員)

それじゃ、病後児保育は無料ということでしょうか。

(事務局)

当然のことながら、病後児保育利用のために医師に書いてもらう書類は有料となりますが、保育そのものは無料です。

(教育長)

もし、そうした間違った情報があれば、訂正していきたいと思いますので、ありましたら教えていただきたいと思います。

(G 委員)

昔の児童センターの入口の階段のところに 1 時間 7 0 0 円と書かれていました。

(事務局)

それは上町児童センターですか？

(G 委員)

飯山小学校の方です。

(事務局)

城山児童センターかな。それは、いつ頃の話ですか。

(G 委員)

小学校が学級閉鎖したときです。

(事務局)

学級閉鎖期間中も、健康なお子さんで、お家では見られない場合に、社協で一時預かりしているサービスがあります。それは、1 時間 7 0 0 円かかりますが、それは病後児保育とは違います。

(事務局)

ちょっとよろしいですか。保育園・幼稚園の関係で、病後児や「きらら」の事です。

園長先生とも話をさせていただいているところですが、保護者会などの時に、おじやまをして、そのあたりも説明させていただきということで、お願いをしているところです。ほかにも同じように受け止めていらっしゃる親御さんもいるかもしれませんので、また説明によらせていただく予定です。

(H 委員)

前は、飯山は田舎で住みにくいという意見がたくさん出て盛り上がりましたが、今回はどうやら不便な点があっても自然豊かで田舎は住みやすいよ、という意見ですね。

(委員長)

両面あるんでしょうね。

(H 委員)

3 月に卒園した園児が 44 名いて、飯山小へ 26 名、残りは飯山小以外の小学校へ入

学しました。全体で11校でした。ということは、木島平村・妙高市を除いて飯山市近隣から飯山市へ勤務されているのだろーと思いました。

勤務先に近いということで利用されていた保護者の方からは、通園に遠いというような不満をもらうことはありませんでしたが、卒園後は出ていってしまった。でも、子どもが園に在籍する間は、飯山で良かったなということは言っておられました。多少、園長に義理だっているところもあるのかもしれませんが。

移住定住策を進めるためには、やはり何か目玉になる政策が必要なのかな、と思います。農業体験をしたいという若者が多いのではないかと思います。そうした方々を把握して広げていくことが必要ではないかと思います。それから空き家が目立ちます。そうした家族で移住するという政策はないのでしょうかね。

(委員長)

参考までに、差しつかえなければI委員、どうでしょうか。

(I委員)

すみません、私は移住してきて15年になりますが、現状で見ると、私が来た頃よりだいぶ子どもに対する支援が増えたな、という印象があります。

来たときは、移住者に対する支援は、ほぼなかったかと思います。もう少し後に来ればよかったかな。今だったら来なかったのかもしれないですけども。

そうした意味では、よそからの移住者への支援が進んでいるというのはあると思いますし評価すべきかなと思います。

(委員長)

困ったことはありましたか。

(I委員)

最初に困ったのは、0歳児の保育ができなかったことです。学校関係は、まあ安心できました。個人的には病院が遠かったかな。良かった点はやはり給食がおいしい。自校給食ですよ。住んでいる方には当たり前のことでも、それは自慢できることなので、そうした声をあげていただければいいかな、と思います。

(委員長)

給食の話で思い出しましたが、ごはん給食大推進派の方の講演があったんですよ。

かなり前ですけども、飯山市は週1でパン給食、それ以外は全部ごはん給食なので二重丸。ということをおっしゃっていました。

飯山市の給食は地産地消と言いますか、素晴らしいというのは私も同感です。

私事で恐縮ですが、家内は 70 を超えています食材提供グループの一員です。

(I 委員)

その仕組みはすごいと思いました。地産地消するというのは。自慢して良いと思うんですね。都会だと給食センターに集約されてしまいますから。

(B 委員)

飯山市の方って案外控えめで、自慢しないですね。私も外から来たから、そう言うんですけど、福祉は手厚いし、食べ物はおいしいし、野菜はおいしいし、それが、当たり前になっていて、特記すべき内容と思っていないところがあるんじゃないのかなあって。自慢してほしいですね。

(委員長)

良いこともたくさんやっていただいていますけど、若い方には、ご不満も少なくないという。ですから、そうした不満が少しでも改善されるように、声をあげたほうが良いと思いますけれども。ですので、自由にご意見をお出しいただければと思いますが。

(J 委員)

さきほど農業体験という話がありましたが、実際に自分の勤めているところでも受け入れて何人か面倒を見ましたが、やはり雪が嫌だということで根付かなかったのもありました。

知り合いが羽広に来て 5 年ぐらいになるのかな。

きゅうりとか野菜を作っている方もいらっしゃいます。若い人だと、ちょっと、なんだろうな、思っていたのと違った、みたいな感じで出て行かれるのかなというのは感じますね。ご夫婦とお子様という方は、結構、根付いてというか、あると思いますね。なので、若者には受けないのかな、と思います。

(委員長)

そうでしょうかね。そういう若者もいた、ということではないでしょうか。

(J 委員)

まあ、そうかもしれませんが、私が見てきた中では、そんな印象を受けました。

また、それとは全く別の話になりますが、高校生の卒業後の進路を見させてもらうと、ほぼほぼ学校へ進学してらっしゃいますよね。ということは、もっと学びたいと思っているという、それだけの学力があると思うんですね。全く学力なければ、そんな進学しようと思わないんだと思います。と言うことは、市内の高校教育レベル的に言えば悪

くないのかな、と感じます。であれば人数が少なくても、教育の質は落ちないのかな、と。ただただコミュニケーション等の関係で大人数のところにいた方がいい、というのはあると思います。何と言ったらいいか難しいですが、実際のところ、自分の息子がそうだったんですが、特別支援の方にかかるかな、かからないかな、という状況。今も…どうなのかな、というところですけども、そうしたお子さんも大勢いるようです。いわゆるグレーゾーンと言われる。そうしたところを保育園のうちから早めに気づいてもらえるというのが、加配をつけてもらっているおかげかな、というのは思います。でなければ、自分らの時代であれば、普通にいた子たちですよ。ちょっと授業中に立って騒いでいる子って、いましたよね。でも、今の時代だと、なんでもかんでも病名がついて治療しましょうって。

(委員長)

あれ、本当にいいことなんかしら、と、私は、思うことはあります。

(J 委員)

実際に、大人になってくれば、だんだん治まってくるので、いいんですけど。で、働いている時代はいいですよ。働いている時代が終わって、退職等して、歳をとってくると、こだわりが強くなってくるっていうんですよ。であれば早めに治療して自分の病気に向き合って、ということが必要だと思うので…、

(委員長)

病気の子どもが増えたということなののでしょうか？現代は。

(J 委員)

病名がついちゃった。

(委員長)

病名を付けるのは人間ですよ。私は昔の人間だからかもしれませんが、そんなに色々区別しないで一緒にみる教育、昔はね。それで今でも同級生としてお付き合いもありますし。意見が分かれるところではありますが。

(J 委員)

そうした面では、少人数の方が先生によく見てもらえるのかな、という気もしています。

(委員長)

そうした面では、ですよ。ただ、切磋琢磨という面で気になります。

(D委員)

今、特別支援の話がありましたが、病気ではないんですよ。だから治療する訳じゃない。診断名がついて、この子には、こういう面でわかりづらさがあるんですよ、ということで、だからこうした支援をすると、この子にはわかりやすくなって、効果的だよという。そうしたことが、今は研究されてきています。ですので、たとえばアスペルガーだとか、ADHD だとかといった名前がつくので、病気とかそういったものではないんですよ。で、そうしたお子さんには、個々に応じた支援の仕方と言うのがあるので、そうした対応をしていくと、お子さんは本当に生き生きと勉強できるし、みんなと一緒にできる場面も増えてくる。みんなと一緒にになれるということを目指しながらやっている。それから昔のように、みんな一緒にやったっていいじゃないかということもあります。どんな障がいがあっても、また、障害者差別解消法と言う法律がありますから、ベースに考えて配慮でなく一緒に考えようといった時代ですよ。そうしたお子さんにも手厚い支援をとということで学校はやっていると思います。

(委員長)

現状の認識不足で、ありがとうございます。

(K委員)

この会は、子どもたちが減るから、これからどうするのかという会だと思っています。私自身が飯山小学校を卒業しているという基準で考えると、少ない人数だと実感します。これから具体的に小学校何校にしていくかという話の時に、前回、H委員がおっしゃられたかもしれませんが、家の地域から小学校がなくなるとかね、そういう議論ではなくて。いかに適正規模の小学校であって、子どもたちの教育に理想的なサイズってどんなのかということ念頭に本気でやってほしい。いろんな地域、いろんな意見があると思います。若い人たちは、保育園からの意見もありましたけれども、教育長とは反対の意見でした。地域から園がなくなっても、良い保育・良い教育をしてもらいたいという意見。それが望む姿だと思うんですよ。ですので、地域に園をとということにまどわされずに、理想的なところに着地していただきたいと思います。

一方で統計的には減少していくということ。政策として横ばいを維持できるような行政としての施策が必要とつくづく思います。

そうしたところで6ページみますと、学校毎の減り方で黄色が非常に多い。黄色は飯山地区で、なぜ減るのが、どういうことなのか、ということ。「まちづくり」としての観点が抜けてるのではないかと私は思います。新幹線でこうした街づくりをしようという発想が必要なのであって、そういう行政施策を一方でやりつつ、小学校は適正規模

にして、子どもに良い教育を与えて。そして、将来あるサイズで飯山市を維持しようというところで着地せざるえないので、総合的パッケージとして念頭に置きながら小学校問題については議論していただきたいと思います。

(F 委員)

保育園の時にも今の意見を出していただきたかったな、と思います。保育園の時は、人数ありきで統合の話が進められて、保護者が求めているのは保育で受ける影響で、子どもたちの不便さを最小限にさせていただくことで、不便が生じるところに対しては、こうした支援をするとか、市でこうしたことをするので統合しませんかという話が一切なく、進められてしまい、なので今、あきは保育園保護者は困惑しておりまして、統合後のイメージがわからない。ただただ自分たちに負担だけが押しつけられているという印象だけがあります。この会の決定事項が、あきは保育園保護者に与えた印象は、そうした押し付けられて行くというところがあったので、そうしたことも踏まえながら、この検討会をすすめていただきたいな、と思います。

(委員長)

時間が若干オーバーしましたが、これから皆さんの意見をいただきまして、方向を模索できればと思います。

(事務局)

実際の学校の状況をみていただきたいと思います。7月19日(木)午後2時から常盤小学校をみて、その後、城北中学校を見ていただきたいと思います。学校と言うことで、日中となりますが、できるだけ多くの委員の皆様に参加いただきたいと思います。

5 その他

常盤小学校見学 7月19日(木) 14:00～ 常盤小・城北中学校見学
第9回検討委員会 8月10日(金) 18:30

詳細は改めて通知することとし、閉会。